

## 203) スキー

坂田君と池田君と小生の3人でスキーに行くことになりました。坂田君は生まれも育ちも北海道だけあって、スキーは天才的に上手でしたから、まあ、小生と池田君が坂田先生にスキーを教えてもらおうと言うことになって、はるばる白馬のスキー場までやってきたのであります。3人はリフトに乗って上まであがって、先生に手解きを受けることになっていたのですが、リフトに乗ると先頭に行く池田君はすっかり興奮して、後ろを振り返ってはしゃぎ始めたのであります。ところが折悪しく彼のスキーの板の先が、リフトの支柱に引っかかって彼はモタモタしている間にぐるりと回転して、危うく下まで落下しそうになってしまいました。さすがにこのあたりは下まで落ちたら10メートル以上ありましたから、彼も必死になってリフトの椅子にしがみついて、何とか難を免れたかに見えたのですが、そのブザマな格好がなんともおかしくて、私も坂田先生もまわりの人も大笑いしてしまったのであります。しかし池田君だけは必死です。真っ青になってしがみついているのであります。坂田先生は地上とリフトの差が3メートルぐらいに近づいてきたとき、「池田！飛び降りろ。後で助けに行くから！」と言ってそこで飛び降りさせました。もちろん雪は2メートルぐらい積もっていましたが池田君はすっぽりと雪の中に潜ってしまい、かくて半日は池田君の救出に終始してしまったのであります。怪我もせずに地上に戻ることができました。めでたしめでたしであったわけでありまして。今と違って昔はスキーの板がやたらと長くて、リフトにはこんな落とし穴があったのであります。